

コミュニティ・スクールの具体的な導入の在り方・充実に向けた方策

志摩市教育委員会

①今年度の取組

平成23年5月1日
志摩市立鵜方小学校学校運営協議会設置

鵜方小学校管理職に
コミュニティ・スクール
についての説明

鵜方小学校学校運営協議
会指定申請 指定

三重県
と協議

鵜方小学校学校運営協議会委
員(15人以内)の推薦 委嘱

設置
準備

鵜方小学校学校運営協議会事務局と要綱
や組織、本年度活動等の検討

①今年度の取組

学校運営協議会(鵜方小を支える会)要綱

(1)目的

学校の教育課題に取り組み、地域に貢献できる活気と魅力ある学校作りを推進

(2)活動内容

- ・学校運営の支援、教育活動の支援
- ・開かれた学校づくり・・・地域に発信、地域の願いの反映
- ・地域の教育ネットワークづくり

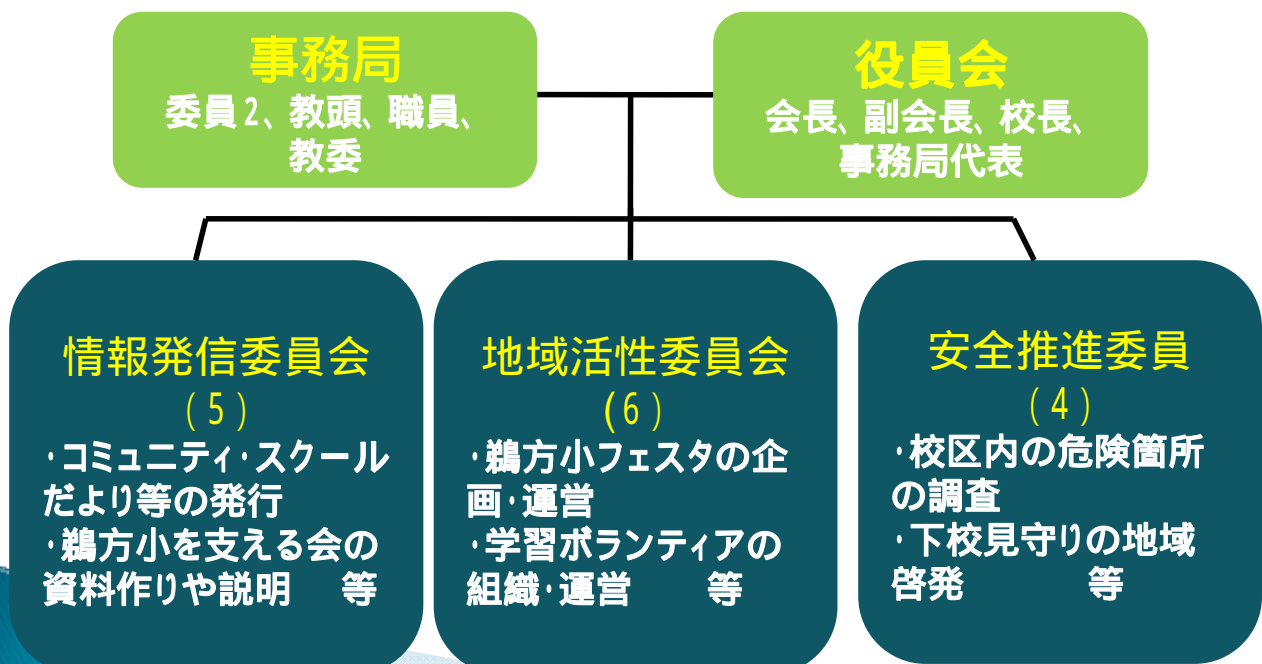
(3)構成

本年度 保護者2人、地域住民10人、識見を有する者3人

(4)会議の運営、(5)委員の任期(一年)、(6)会計

①今年度の取組

鵜方小を支える会組織図及び本年度の活動



②今までの取組

コミュニティ・スクール調査研究期間(2年間)の歩み

1 指定校の志摩市立鵜方小学校について

校区が広く、交通量が多いため
安全面で心配がある

人とつながる力が弱い児童が目
立つ

保護者同士のつながりが希薄で
ある

地域への愛着が薄くなってきて
いる保護者が増えている

鵜方は行政の中心地、
新しい住宅地が多い



志摩市で一番
大きい学校

平成12年に「鵜方小学校を支える会」を設置
教育活動を支援しようとする地域住民の意識が高い

②今までの取組

コミュニティ・スクール調査研究期間(2年間)の歩み

2 調査研究の1年目

< 課題・テーマ >

- ・学校運営協議会制度についての研究
- ・学校に対しての保護者や地域からの意見の把握
- ・地域からの意見を学校運営に反映

< 取組 >

- ・鵜方小学校学校運営協議会制度推進委員会
- ・先進校視察、研究会や研修会への参加
- ・(鵜方小学校フェスタへの参画)

②今までの取組

コミュニティ・スクール調査研究期間(2年間)の歩み

2 調査研究の1年目

<研究の成果>

◆地域の意見を把握できた



- ・学校の教育活動が分からない
- ・地域の人々による支援活動が学校全体で共有されていない
- ・地域を誇れる子どもを育てるための教育活動を行ってほしい

◆学校に関わる課題の解決に向け、協力し合うことを確認できた

②今までの取組

コミュニティ・スクール調査研究期間(2年間)の歩み

2 調査研究の1年目

<研究の課題>

- ◆教育活動をどのように地域に発信するか
- ◆地域住民の支援活動を職員全体で共有する
- ◆地域が学校にしてほしいことや地域住民が支援したいと思うことがつかめていない
- ◆子どもや保護者、地域住民の「地域の学校、地域の子どもという意識」をどのように高めていくか
- ◆鵜方小学校学校運営協議会をどのような組織にしていくのか

②今までの取組

コミュニティ・スクール調査研究期間(2年間)の歩み

3 調査研究の2年目

<課題・テーマ>

- ◆地域の意見や願いを把握し、学校運営や教育活動に反映させるための方策の検討
- ◆学校運営協議会の役割の明確化と学校や地域、教育委員会が連携して「地域の子ども」を育成するための体制を検討
- ◆学校運営協議会設置に向けての組織、運営体制づくりの具体的な検討
- ◆地域が学校に協力できることを把握し、それを教育活動に活用するための方策の検討
- ◆地域との協働による学校行事の運営の在り方の検討と効果の検証

②今までの取組

コミュニティ・スクール調査研究期間(2年間)の歩み

3 調査研究の2年目

<取組>

意見把握

地域関係団体会議に参加したり、アンケート等を実施して地域や保護者の意見を把握し、推進委員会で結果分析

情報発信

地域住民が支援したいこと、学校が支援してほしいことの把握、その活用を推進委員会で検討

研修

PTA会議、学校だよりで学校運営協議会制度の趣旨説明、教育活動の紹介
学校運営協議会設置に向けて、規則や体制づくりのため先進校視察や研修会等に参加し、資料を収集、規則や体制等を推進委員会で検討

鷗方小フェスタへ参画、効果の検証

②今までの取組

コミュニティ・スクール調査研究期間(2年間)の歩み

3 調査研究の2年目

<研究の成果>

◆「鵜方小を支える会」
との統合

◆地域住民の学校への意見の把握
「どんな子どもを育てていくのか」
が明確化
「学校を支えたい」、「私たちの学
校」という気持ち

◆広報活動の充実
PTA総会での制度説明、委員会
の様子を放映
学校だよりの地域への配布

◆地域に支援してほしいことが明らかになった

②今までの取組

コミュニティ・スクール調査研究期間(2年間)の歩み

3 調査研究の2年目

<研究の課題>

◆「鵜方小を支える
会」の取組を継続す
るために、先を見通し
た人材の発掘や後継
者の育成システム

◆地域住民の思いと学校運営協議会
制度とのギャップ
地域住民は「ただただ学校を支えたい」、しかし学校運営に関わるゆえに
責務が生ずる

◆学校の思い(手伝ってほしい)と地域
住民(手伝いたい)をうまくつないでいく
学校を盛り上げる地域の力と地域を
盛り上げる学校の力をうまく活用する

◆学校運営協議会に
ついて更なる情報発
信と地域住民が参画
する活動を増やして
いく

②今までの取組

コミュニティ・スクール調査研究期間を通して

4 教育委員会として

<成果>

- ◆学校運営協議会制度への理解が深まった
- ◆学校運営協議会の設置及び運営に関する規則を制定した
- ◆学校運営協議会の設置に向けた流れがつかめた

<課題>

- ◆推進委員会に関わっていたが、委員会が前進するような指導及び助言ができなかった
- ◆設置のための予算措置がとれなかった

③今後の取組予定

「鵜方小を支える会」
(鵜方小学校学校運営協議会)

円滑な運営と活動の継続

検証

指導・助言

支援

志摩市教育委員会

鵜方小学校学校運営協議会の運営やその活動を検証していくことで、その他の学校へ学校運営協議会を導入していくかどうかを検討していく